

☆校長式辞

春爛漫、一年中で最も美しく、また夢と希望に満ち溢れたこの季節に、皆さんを光塩女子学院にお迎えして、入学式を行えますこと、大変うれしく喜びでいっぱいです。今日から新しい生活を始められる《中等科》《高等科》一年生の皆さん、そして、ご臨席の保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。心より、お祝いとお慶びを申し上げます。今日からスタートする光塩女子学院での生活が日々、新たな発見と気づき、将来へとつながる歩みと成長の時となりますようお祈り申し上げます。

今日ここに皆さんが集まり、光塩女子学院で新たな学びを始めることは、決して偶然なことではありません。神様が皆さんを光塩女子学院に招き、皆さんと私どもを出会わせてくださいました。皆さんご自身が光塩を選ばれたと同時に、神様が皆さんをここに集められ、共に学ぶよう導いてくださったと、私は確信しています。

光塩女子学院の校名は、「あなたがたは世の光である」「あなたがたは地の塩である」という新約聖書 マタイによる福音書の中のイエス・キリストの言葉から名づけられたものです。

イエスは、皆さんに「世の光」、「地の塩」になりなさいとは言いませんでした。

皆さんお一人おひとりがありのままユニークなかけがえのない「世の光」であり、「地の塩」である と言っておられます。

私たちは常に勉強や習い事、(クラブ活動)など、何か出来たら褒められる、他の方々と比べて何か良い成績を残したら評価されるという条件付きの環境の中で生きています。しかし、それは人間の本質的な在り方ではないのかもしれない。

皆さんは多感な時期に入り、周りの人のことが気になり始めるでしょう。自分と比べてあの人はどうしてあんなに優れているのだろう。自分はどうしてこんなにできないのだろう、駄目なのだろうと落ち込むこともあるかもしれません。

しかし、それは皆さんが自分のことだけでなく、周りの人に目を向けることができるようになった喜ばしい成長の証であると言えるでしょう。

ただし、他の人と自分を比較してばかりだと、自分の成長に気づくことができず、行き詰まりを感じてしまいます。そんな時は改めて自分自身に目を向けてみましょう。

皆さん(135名、173名)はお一人おひとり顔も背丈も声も異なります。文章を書くのが好きな人もいれば、本を読むのが好きな人、絵を描くことが好きな人、音楽を聴くことが好きな人、歌を歌うのが好きな人、楽器を奏でるのが好きな人、数字を眺めたり計算するのが好きな人、体を動かすことが好きな人、友達をたくさんつくっている人々と接するのが好きな人、じっくり自分の考えを整理するのが好きな人、野の花を眺めたり、野鳥を観察するのが好きな人など様々です。

また同じ文章を書くのが好きな人でも 書く内容、考え方、筆跡も含めそれぞれ異なるでしょう。同じ絵を描くのが好きな人でも、描く絵の雰囲気、種類は様々です。

それは皆さんお一人おひとりがそれぞれ神様から特別につくられ、自分自身の中にこの世に一人だけの「光」と「塩」を持っているということの現れです。その「光」と「塩」

をどのように皆さんは磨きをかけていきたいですか？

さて、この「あなたがたは世の光である」「あなたがたは地の塩である」という言葉は、2000年以上前に、イエスが山に登って腰を下ろされると、弟子たちが近づいてきたので、語られたものです。きっと弟子たち以外にもイエスのお話が聴きたくて、あるいはちょっと聴いてみようと思ってやって来た人など様々な人がいたことでしょう。ここでは、イエスの弟子の中心メンバーである12人に焦点を絞って考えてみたいと思います。

12人の中には、貧しい漁師がいました。漁師は決して身分が高い訳ではなく、特別に勉強ができた訳でもなく、お金持ちでもない人です。

徴税人もいました。徴税人は支配者であるローマ帝国に税金を納めるとりまとめ役です。人々から多めにお金を取り立てて不正に自分のお財布の中身を増やしていた人です。いわゆるみんなの嫌われ者です。

熱心党の人もいました。熱心党の人は反ローマ帝国の過激派です。政治的に過激な考えの持ち主ですから、おそらく友だちも少ない人でしょう。

イエスの弟子たちは、当時の社会の中では軽んじられ、嫌われ、大切にされていない人たちもいたということです。その人たちにもイエスは、ありのままにあなたがたは「世の光」、「地の塩」であると言われました。ありのままに大切な存在だと言ってもらいました。だからイエスについて行きました。イエスについて行けば自分の中にある宝もの「光」と「塩」に出会えるかもしれないと。イエスと共に旅をしました。

ところが、イエスは罪を着せられ捕らえられ、十字架に架けられて殺されてしまいます。あれだけ大切にされてイエスを慕ってついて行ったはずの弟子たちは、自分の身を守るためにイエスを置いて一目散に逃げてしまいました。イエスが一番苦しい時にそばにいて寄り添うどころか裏切ってしまいました。

それでも、イエスは弟子たちのことを恨むことなく大切に思いつつ亡くなります。イエスが亡くなった後に、弟子たちは気が付きます。それでも、ありのままの自分たちを受け入れ大切にされていたことに。自分たちの「光」と「塩」を改めて見つけたのです。そこで、今度は自分たちがイエスにしてもらったように他の人たちをありのまま大切に、自分たちの「光」と「塩」を磨いていきました。

光塩女子学院に入学した新入生の皆さん、ご自身の中にある「光」と「塩」を見つけ、磨きをかけていく旅を是非私たちと一緒にいたしましょう！

最後になりましたが、保護者の皆様、《小学校》《中学校》の過程を終え、一段と成長なさったお嬢様のお姿を前に、さぞお喜びでいらっしゃることと存じます。

お嬢様方の最も成長めざましい大切な時期を、光塩女子学院にお託しくださったことに、感謝申し上げます。お預かりいたしましたからには、私ども精一杯努力いたす所存でございます。

お嬢様方は、これから思春期という成長の過程で、大変重要かつかけがえのない時を過ごされます。この大切な時期、信頼関係に根ざした、ご家庭でのかかわりと、お嬢様の意思を尊重された、ご家庭での対話・心の通い合いが不可欠です。どうぞ常に見守り、変わらぬ愛を持ってお嬢様と接して下さるようお願い申し上げます。

お嬢様方のより良いご成長のために、ご家庭と学校との誠実なかかわりと、連携とが何より大切であると存じます。保護者の皆様方からの、忌憚のないご意見と、ご協力とを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。お祝いと歓迎のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。